
オープンソースと地域作り

オープンソースカンファレンス運営事務局
株式会社びぎねっと 代表取締役社長兼CEO

宮原 徹

tmiyaha@Begi.net

Begi.net

自己紹介・略歴

- 本名: 宮原 徹
- 1972年1月 神奈川県生まれ
- 1994年3月 中央大学法学部法律学科卒業
- 1994年4月 日本オラクル株式会社入社
 - PCサーバ向けRDBMS製品マーケティングに従事
 - Linux版Oracle8の日本市場向け出荷に貢献
- 2000年3月 株式会社デジタルデザイン 東京支社長および株式会社アクアリウムコンピューター 代表取締役社長に就任
 - 2006年6月 (株)デジタルデザイン、ナスダック・ジャパン上場
- 2001年1月 株式会社びぎねっと 設立
- 2006年12月 日本仮想化技術株式会社 設立
- オープンソース関係の活動として「オープンソースカンファレンス」(OSC)の企画運営を担当
- 2008年度 日本OSS貢献者賞受賞

Begi.net

本日お話ししたいポイント

1. オープンソースカンファレンスについて
2. 地域とオープンソース
3. オープンソースによる地域作りに必要な事

Begi.net

『OSC』の目的

- オープンソースコミュニティの『活動成果』の発表の場を提供
- 開発者とユーザーの『出会いの場』の提供
- ビジネスチャンスの創出
- 企業・コミュニティ・その他グループの緩やかな連動
- OSSの今後をよりよくしていくための試みを考える

Begi.net

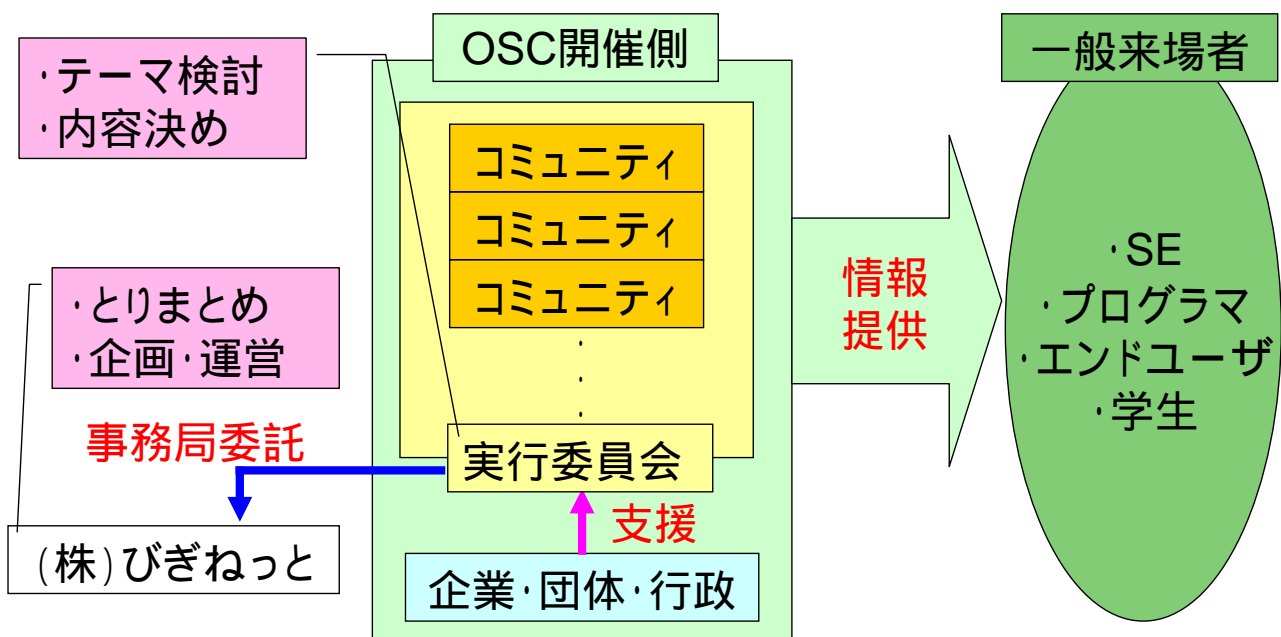
これまでの開催と予定

- | | |
|-------------------------------------|--|
| 1. オープンソースカンファレンス2004 | 18. オープンソースカンファレンス2007 Okinawa |
| 2. オープンソースカンファレンス2005 | 19. オープンソースカンファレンス2007 Fukuoka |
| 3. オープンソースカンファレンス2005 in Hokkaido | 20. オープンソースカンファレンス2008 Oita |
| 4. オープンソースカンファレンス2005 Tokyo/Fall | 21. オープンソースカンファレンス2008
Tokyo/Spring |
| 5. オープンソースカンファレンス2005 Okinawa | 22. オープンソースカンファレンス2008 Nagaoka |
| 6. オープンソースカンファレンス2006 Spring | 23. オープンソースカンファレンス2008 .DB |
| 7. オープンソースカンファレンス2006 Niigata | 24. オープンソースカンファレンス2008 Hokkaido |
| 8. オープンソースカンファレンス2006 .DB | 25. オープンソースカンファレンス2008 Kansai |
| 9. オープンソースカンファレンス2006 Hokkaido | 26. オープンソースカンファレンス2008 Nagoya |
| 10. オープンソースカンファレンス2006 Tokyo/Fall | 27. オープンソースカンファレンス2008 Shiman |
| 11. オープンソースカンファレンス2006 Okinawa | 28. オープンソースカンファレンス2008
Tokyo/Fall |
| 12. オープンソースカンファレンス2007 Tokyo/Spring | 29. オープンソースカンファレンス2008 Okinawa |
| 13. オープンソースカンファレンス2007 .DB | 30. オープンソースカンファレンス2008 Fukuoka |
| 14. オープンソースカンファレンス2007 Hokkaido | 31. オープンソースカンファレンス2009 Sendai |
| 15. オープンソースカンファレンス2007 Kansai | 32. オープンソースカンファレンス2009
Tokyo/Spring |
| 16. オープンソースカンファレンス2007 Tokyo/Fall | 33. オープンソースカンファレンス2009 Oita |
| 17. オープンソースカンファレンス2007 Niigata | |

累計参加者数不明(2007年が5000名くらいだったので、
多分全部で1万5千名くらい?)

Begi.net

OSC 運営 組織図



Begi.net

地域OSSの広がり – OSC開催地



OSC開催地(予定含む)

- 札幌
- 仙台
- 新潟
- 長岡
- 東京
- 名古屋
- 京都
- 島根
- 高知(予定)
- 福岡
- 大分
- 沖縄

北は北海道から、南は九州・沖縄まで

Begi.net

OSCよもやま話

- 元々は一人全国行脚から
 - 努力すれど、人は集まらず(参加者数名)
- 2004年、東京での開催 500名参加 年2回開催を即日決定
- 2005年、北は北海道から、南は沖縄まで
 - 実際には北海道と沖縄でしかやっていない、「オセロの原理」
- 開催立候補制
 - たとえば関西は2007年まで開催無し
 - 商業オンリーではないので、大都市優先ではない

Begi.net

地域とオープンソース

2008年 各開催地の特徴

Begi.net

新潟・長岡の場合

- 新潟市内だと意外に集客に苦戦
- 2008年は長岡技術科学大学を使って開催
- 学生参加者多数
 - 全参加者130名中60名が学生
 - レポート提出を義務づけ
 - 「学生1:社会人3」のレートで換算すれば250名参加者相当
 - 企業人事担当者の講演なども好評

Begi.net

北海道の場合

- 2005年からの開催なので、4回目の開催
- 地元支援団体「LOCAL」の立ち上げ
 - <http://www.local.gr.jp/>
 - メンバー20名程度？
 - コミュニティ活動支援を目的とした組織
 - ボランタリーベース
 - 今後NPO化を行う
- OSS/OSCをきっかけに地域作りへと繋がった先行事例

Begi.net

京都の場合

- 京都コンピュータ学院での開催
- 在校学生多数参加
 - 2007年で500名程度？(特別講義聴講必須)
 - 2008年はより積極参加する学生が目立つ
 - 学校としてのブース出展やライトニングトーク参加など
- 関西圏における大阪と京都の違い
 - 京都独自のアカデミズム？

Begi.net

名古屋の場合

- 名古屋市立大学での開催(予定)
- Web制作関係者多し
 - 隣接領域も含めて、OSSにこだわらない催し
- 名古屋へのこだわり
 - 名古屋発の情報発信
 - 名古屋でのイベント率低下に対するてこ入れ

Begi.net

島根の場合

- 島根県および松江市からの強力なバックアップ
 - 懇親会に県知事および市長も参加
- 2日間の参加者数500名！
 - 用意した配布プログラムがまったく足りない
 - 初の高校生出展(「松商だんだん.com」松江商業高校)
- 全国各地から参加者が
 - OSCの総会的位置づけになり、大成功

Begi.net

OSC全体を通して

- 中核を担う人の熱意
 - すべてを満たすことはできない
 - 何を活かし、何に目をつぶるか
 - 第三者の批評・批判は気にしない
- 「集客の目玉」の是非
 - 地域間交流との兼ね合い
 - 本物に触れる機会(特に学生)
- 彼我の差に気づく機会
 - 地域としての特徴・特長は何か？
 - 地域間交流の一層の促進

Begi.net

OSCとは何か

- 「日常」と「お祭り」
- 新たな発見、気づき
- Face to Face コミュニケーション

Begi.net

OSSによる地域作りに必要なこと

1. 郷土愛
2. ビジネス的視点
3. 趣味

Begi.net

OSC 今後の予定

- 11月29日(土): OSC2008 Okinawa
- 12月13日(土): OSC2008 Fukuoka
- 1月24日(土) : OSC2009 Sendai
- 2月20日(金) /21日(土): OSC2009
Tokyo/Spring
- 3月 : OSC2009 Oita

Begi.net

まとめ: OSC今後の目標

- 地域の自立した開催
- 地域間交流の一層の活性化
- 東京一極集中の解消
- 若手人材の育成
- ライフワークとしてのOSS

Begi.net

『オープンソースの「今」を伝える』

Open Source Conferenceを
引き続きよろしく申し上げます

Begi.net